

# まけないぴろたん へこへこまがじん

責任編集

雄鶏屋ほんだわら  
おんどりや

このウェブマガジンは名張市議会議員の  
福田博行先生を応援させてもらってます。  
頑張れ～！ 樋渡啓祐先生も頑張れ～！

第1号



「それで名張市議会の先生がたによる視察の件なんですけど」

「たしか佐賀県でしたか」

「九人の先生がたが武雄市にいらっしやいます」

「図書館で有名になったまちですね」

「『伊賀別筆』第一号の漫才でその視察のことに触れたんですけど中途半端に終わったのを遺憾といたします」

「君そんなんばっかりですがな」

「名張市の議会事務局に質問のメールをお出ししたのが十月二十一日です」

「またそんなことしたんですか」

「清風クラブと公明党の先生がたが武雄市へ視察にいらっしやるゆうのはほんまでっしやるか」

「そんなメールほとんど公務執行妨害や

と思いますけど」

「翌日お答えを頂戴しました」

「事務局のみなさんも大変です」

「九人の先生がたから武雄市で『武雄市図書館の運営』と『武雄市の教育改革』について政務活動費を用いた視察を十月二十九日に実施すると議長さんあての届けが出されてますゆうよなことです」

「そしたらやっぱり」

「清風クラブ五人と公明党四人の合計九人の先生がたが十月二十九日に政務活動費で武雄市を視察なさいました」

「先生がたどうも苦勞さまでした」

「『伊賀別筆』第一号をネット上で公開したのは十月三十一日土曜日の早朝のことでした」

「視察の二日後ですか」

「十月三十日には清風クラブの福田博行先生がご自分のブログに『佐賀県武雄市に視察ほか』という記事を発表していらっしやったんですけど」

「視察のご報告ですね」

「その記事を拝見する前に『伊賀別筆』第一号を公開する結果になりましたね」

「日程的に押せ押せでしたか」

「ですから『伊賀別筆』第一号では福田先生による視察のご報告に触れることができますんでした」

「それで福田先生のご報告はどんなにでした」

「なにしろ絶好の行楽シーズンでしたからびろたんはもう大はしゃぎ」  
「はしゃいでどないしますねん」

「いちば〜ん」

「いきなりどないしました」

「吉田正己先生〜」

「もしかしたらそれ」

「赤目町柏原二三八番地〜」

「名張市議会の先生ですか」

「二期目〜」

「しかも武雄市図書館へ視察にいらつし  
やった先生」

「にば〜ん」

「どなたですやろ」

「常俊朋子先生〜」

「やつぱり清風クラブの先生ですか」

「つつじが丘北十番町一五二番地七〜」

「そこまで住所を明かす必要はないと思  
いますけど」

「二期目〜」

「そもそも目的はなんなんですか」

「さんば〜ん」

「そんなことして面白いですか」

「森岡秀之先生〜」

「君ものすご嬉しそうですけどね」

「蔵持町里二〇七六番地〜」

「蔵持ゆうことは君の地元の先生やない  
ですか」

「二期目〜」

「十月の二十九日」

「よんば〜ん」

「政務活動費で武雄市図書館を視察した  
九人の先生がた」

「豊岡千代子先生〜」

「全員のお名前とかご住所とか」

「東町一六七三番地二〜」

「ここで発表するつもりなんですか」

「二期目〜」

「そんなことして大丈夫ですか」

「ごぼ〜ん」

「裁判沙汰になるような真似だけはやめ  
といたほうがええと思いますけど」

「福田博行先生〜」

「だいたい君いろいろなところから嫌われ  
てるわけですよ」

「夏見二四九六番地〜」

「なにが起きて僕も知りませんから」

「五期目〜」

「福田先生はもう五期目でいらつしやい  
ますか」

「自由民主党所属〜」

「そうでしたね」

「お仲間〜」

「お仲間もいてはるんですか」

「川崎二郎先生」

「川崎先生なにしはりますねん」

「飛びます飛びます」

「それは坂上二郎さんですから」

「ろくば」

「まだやりますか」

「吉住美智子先生」

「名張市も女性の議員先生が増えてきました」

「すぐらん台東一番町二三六番地」

「現在は二十人中六人が女性議員で」

「四期目」

「女性が活躍する社会ゆうやつですか」

「公明党所属」

「名張市議会ではたしか四人の先生が公明党でいらっしやいまして」

「南無妙法蓮華経」

「なんでお経が出てきますねん」

「お経は読んでも乱歩は読まぬ」

「乱歩は関係ありませんがな」

「ななば」

「まだ行くんですか」

「阪本忠幸先生」

「行くところまで行かな終わりませんな」

「梅が丘南二番町八番地」

「さつさと終わってもらいましょか」

「一期目」

「新人の先生も武雄市図書館へ」

「公明党所属」

「熱い視察にいらっしやいました」

「南無阿弥陀仏」

「お題目はいいですから」

「アッサラムアライクム」

「君はイスラムの人なんですか」

「はちば」

「ついに八番まで来ました」

「富田真由美先生」

「また女性の先生です」

「つつじが丘北七番町六二番地。二期目。公明党所属」

「君なんや焦ってませんか」

「きゅうば」

「最後の先生です」

「細矢一宏先生。百合が丘西二番町一九三番地。三期目。公明党所属」

「これで九人の先生が出揃いました」

「手間をかけたやつたぜまったく」

「君が勝手にやっただけですがな」

(二〇一五・一二・七)





# まけないぴろたん へこへこまがじん

第1号目次

僕の福田先生バッシング

〇二

おた  
めし  
ひん

責任編集 中相作改<sup>あんどりや</sup>雄鶏屋ほんだわら  
誌面設計・組版 犬の小春

まけないぴろたんへこへこまがじん  
第一巻第一号 平成二十八年二月二日発行  
定価二二円